

目標【誰もが安心して生活できる避難所を実現する】

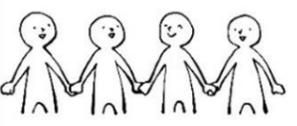
目標達成のための方策を

- ⇒ 主体別（個人で対応すること・地域で対応すること・みんなで協力して対応すること）に出し合い、
- ⇒ 容易性「すぐに対応できること」「協議したら対応できそうなこと」「対応することがなかなか難しそうなこと」で分類しました。

やおキラ交流会の参加者から出された意見です。

他にもありませんか？

気づいたことを書き足してみよう。

	すぐに対応できること	協議したら対応できそうなこと	対応することがなかなか難しそうなこと
個人で対応すること	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは自分自身の安全確保！ ・食料や水、携帯トイレなど、すぐに必要になるものは自分で持参すれば、避難所設営を速やかに進めることができる ・体育館の中は寒い ⇒ ダンボールを下に敷くだけでも全然違う！ 自宅のダンボールを持参しよう ・自分の持ち物には名前を記入しておく <p>【ワークショップで実感した、あると便利なもの】 新聞紙、アルミシート、ダンボール、トイレトペーパー、ビニール袋、尿漏れパット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活からできることを考えて、楽しく避難訓練に参加しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物資をすべて市が備蓄することはできない ・自助、共助で対応できることもあるはず 
地域で対応すること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と日頃接していることが、いざという時の力になる ・ご近所づきあいは大切 ・災害用伝言ダイヤル「171」の周知 ・日頃からの訓練と意識付け ・シミュレーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動をしていない人に自助の大切さをもっと広報していくことも大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地区の方、旅行者の受け入れや対応 ・若い方にもっと避難所について興味をもってもらう方法はないか？
みんなで協力して対応すること	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時に避難所で行う「協力を求める情報発信」は、協力を申し出やすい工夫をしよう （例：保育士募集ではなく、「保育コーナーの協力者募集、子どもの好きな方」と呼びかける） 	<ul style="list-style-type: none"> ・区割りを決める…本部、受付、情報掲示板、伝言板、供給物資の配布場所と保管場所、トイレ設置場所、居住スペース、通路、更衣室（男女別）、洗濯干し場、授乳場所、子どもの遊び場など ・意見を聞くことの大切さ（1人1人考えは違う） ・女性（子ども含む）がづらい目に合わないようという視点をもつ ・協力し合いながら皆で運営していこうという意識が盛り上がれば、ストレスも低下するのではないか？ ・備蓄品の配布時期や配布方法を定める 非常食、毛布、生理用品、オムツなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅避難者への備蓄物資配布⇒寝たきりなどの自宅から出られない人はどうしたらよいのだろうか？ ・感染症罹患患者、要配慮者等への専門的・医療的なケア ・役割分担やルール作り…リーダーや役割を決める、避難所での時間割、トイレや洗濯干し場の使い方、ペット対応のルール作り ・子どもを運営に巻き込むプラン作り ・小さな子どもを抱えた人が率先してとりまとめ役として動くのは厳しいのでは？

正解はありません。
「考えておく」こと、
イマジネーションが大切です。



（アドバイザー）
龍谷大学政策学部
石原凌河准教授

1. すぐに対応できること
⇒災害発生時にすぐにやいましょう。準備できることは今から。
2. 協議したら対応できそうなこと
⇒今から協議をはじめましょう。
3. 対応することがなかなか難しそうなこと
⇒どうすれば対応できるか、話し合ってください。

【やおキラ交流会 参加者からのメッセージ】

・『災害が起こると避難所に行く』という意識は多くの方がもっていると思います。しかし、その『避難所』を誰が運営するのかということは、ほとんど考えられていないと思います。誰かがやってくれる、行政がやってくれると思っていても、実際は全員が被災者です。「誰かが」ではなく「自分が」ということを考えられるのも、今できる大切な防災だと私は思いました。

・避難所運営には、女性も積極的に参加して女性の声を届けることが大切です。避難所運営は地域住民が主体になって行うものです。自分は大丈夫と思わずに、災害が起きた際のことを一度考えてみてください。

大規模災害発生時の避難所立ち上げには、円滑に運営するための役割や機能、スペース（リーダー、受付・掲示板、仮設トイレ、洗濯干し場・更衣室）などが必要です。そこで、実際に避難所となる体育館でワークショップを行い、特に避難者の生活に直結するテーマ（自助・共助、居住スペース）ごとの班に分かれ、避難所での生活で想定される具体的な場面や課題を**ミッション**として設定し議論しました。

実際の体育館での議論では、以下のような気づきやアイデアが出されました。実際の避難所に正解はありません。あくまでもこれらの意見を参考として、地域での計画の策定や話し合いに役立ててください。

※ご家庭や地域においても、それぞれのミッションについて考えてみませんか？ 考えている・対策ができたミッションにはチェックを入れましょう。

リーダー班		仮設トイレ班							
<input type="checkbox"/> 避難所本部と受付場所を決定し、体育館内レイアウトを考えましょう。 ・通路は十字に分け、周り（壁側）と中央に作ると移動しやすい ・障がい者、高齢者はトイレの近くが望ましいのでは？ ・車いす利用者用の通路幅が必要だ ・居住スペースの分けを町会ごとにする顔見知り同士助けやすいのでは？		<input type="checkbox"/> 仮設トイレを設営しましょう。 ・トイレ用袋、尿漏れパット、生理用品を捨てる場所と、においが問題ではないか ・ネコ砂（におい取り）が使えるかもしれない							
<input type="checkbox"/> その他必要スペースを考えましょう。 ・ペットのスペースは、アレルギーのある人のことも考慮して場所を決定する ・臨機応変に、その都度話し合っ決めていくことも大事だと思う		<input type="checkbox"/> ダンボールベッドとアルミマットを設置しましょう。 ・ダンボールベッドの備蓄が難しい ⇒ 代替品で対応する ・使用の優先順位を決めなくてはならない（高齢者、妊娠中の女性など） ・アルミシートは保温性があるがまぶしいと感じることもあり、使い方の工夫が必要							
<input type="checkbox"/> 時刻は21時。消灯について考えましょう。 ・夜回りしてくれる人を募集する必要がある（防犯）		<input type="checkbox"/> 避難所に備蓄してある毛布の配布方法や配布対象者はどうしますか？ ・配布枚数に限りがあるので、毛布は持参するのが望ましいと思う							
<input type="checkbox"/> 目や耳の不自由な人への伝言方法は？ ・代読、筆談や手話で伝える ・外国籍の方などで、日本語がわからない人への配慮も必要		<input type="checkbox"/> ベッド数が足りません。どうしますか？（高齢者、妊娠中の女性がいます） ・体育館のマットも活用したい ・空気を入れて使えるマットや登山用品等を非常持出袋に入れておくのがよい							
<input type="checkbox"/> 掲示板を設置しましょう。 ・情報は内容ごとに分けて掲示する		<input type="checkbox"/> 持参した非常持出袋の内容について意見交換しましょう。 ・日頃からの非常持出袋の点検が必要だ							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>避難スペースの外に掲示</th> <th>受付</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内容</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ライフライン 市役所からの情報 相談窓口 仮設住宅 安否情報 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 募集（医師、看護師、介護士、外国語通訳者、保育士、ボランティアなど） 避難所ルール、衛生管理、防犯啓発 時間管理表（食事、お風呂など） 役割分担表 避難所案内図 </td> </tr> </tbody> </table>		場所	避難スペースの外に掲示	受付	内容	<ul style="list-style-type: none"> ライフライン 市役所からの情報 相談窓口 仮設住宅 安否情報 	<ul style="list-style-type: none"> 募集（医師、看護師、介護士、外国語通訳者、保育士、ボランティアなど） 避難所ルール、衛生管理、防犯啓発 時間管理表（食事、お風呂など） 役割分担表 避難所案内図 	<input type="checkbox"/> 自助・共助班 ・食料、飲物は自分で用意（最低限の物は持参）するようにしよう ・もらえる、避難所備蓄に頼るという前提をなくす ⇒メリット：自分で持ってきた物は自分で使える ・ペットの備蓄も考えなくては ・子どもだけで避難してきた場合の対応や支援も考えておく必要がある	
場所	避難スペースの外に掲示	受付							
内容	<ul style="list-style-type: none"> ライフライン 市役所からの情報 相談窓口 仮設住宅 安否情報 	<ul style="list-style-type: none"> 募集（医師、看護師、介護士、外国語通訳者、保育士、ボランティアなど） 避難所ルール、衛生管理、防犯啓発 時間管理表（食事、お風呂など） 役割分担表 避難所案内図 							
<input type="checkbox"/> 仮設トイレの設置場所を検討しましょう。 ・条件：男女別、通気性のよい場所 ・女性の不安を軽減するために明るい場所に設置する（性犯罪の防止）		<input type="checkbox"/> 洗濯・更衣室班 <input type="checkbox"/> 更衣室でのルールについて考えましょう。 ・男女別更衣室とし、未就学児までは性別に関係なく利用を可としてはどうか ・小学生だけで使用させない（保護者がつきそう）ことにする ・使用中の札が必要になるのでは							
<input type="checkbox"/> トイレ使用のルールを考えましょう。 ・掃除当番、使用方法（トイレ内の携帯電話の使用禁止など）をルール化する		<input type="checkbox"/> 洗濯物干し班 <input type="checkbox"/> 洗濯物を干したまま放置されている場合の対応は？ ・干しっ放しの洗濯物は洗濯班であずかるようにしてはどうか							

みんなにやさしい避難所を考えよう

～令和元年度やおキラ交流会から～

災害が発生したとき、地域において活動できる即戦力として、女性の力が注目されています。今年度、まちづくり協議会や市民活動団体、消防団女性分団、大阪経済法科大学 SAFETY 及び学生防犯隊などで活躍する女性が集まり、災害が発生した際、避難者が安全で安心して過ごせる避難所運営について話し合いました（やおキラ交流会）。

その中では、男女のニーズの違いや要配慮者への対応など、女性の視点からさまざまな意見が出されました。そうした学びや気づきを、地区防災計画の策定や、地域・団体の防災を考える際の参考にさせていただけるようにまとめました。

八尾市 危機管理課
 政策企画部政策推進課女性活躍推進室
 人権文化ふれあい部コミュニティ政策推進課
 消防本部

八尾市

